投資ゲームで学ぶ先輩投資家の戦略

ネットレ投資ダービー 第1戦

先行き不透明な相場環境が続く中、ネットトレードのベテランたちは、何に注目し、どんな銘柄を買っているのか。バーチャル投資ゲームの実況方式で、先輩投資家の戦略を解説する。

文●小倉秀彦　写真●梅間裕士　協力●ケイゾン

小泉政権への期待が高まる一方、景気は一段と低迷し、株式市場の先行きを見通しにくい状況が続いている。相場全体に力強さが欠ける投資環境では、市場の先行きを予想する分析力、個別銘柄の選択力、売買タイミングについての判断力、思いが外れたときの対応力など、総合的な投資力を高めなければ、なかなか勝つことはできない。

経験豊富な投資家たちはどんな投資戦略で必勝を目指すのか、この企画では、ネットトレードに精通する3人によるバーチャル投資ゲームを開催し、本年11月末までの詳細な取引状況を通信形式で報告していく。

参加者の投資スタイルは三者三様だが、豊富な経験を生かし、相場のアヤを読みながらの「真剣勝負」が始まった。

ゲームのルール

▶トレダビの協力で、ほぼリアルに売買

この「ネットレ投資ダービー」では、ケイゾン（吉田武司社長）が運営するバーチャル投資ゲーム「トレーディングダービー」（以下トレダビ）を利用した。

トレダビは、数ある投資ゲームの中でも極めてリアルに取引できるシステムを持る。取引価格は実際の市場に基づいて常に変動し（20分遅れ）、約定価格や株数は、実際の市場での売買高や気配値を反映して決定される。また、売買するたびに手数料や税金も差し引かれる。信用取引はできないが、実際のネット証券会社で短期売買をするのとほとんど変わらない感覚でゲームを楽しむことができる。ネット証券会社の多くが、投資体験ゲームとしてトレダビを利用している。

通常のトレダビは、スタート時の資金1億円、3カ月ごとにゲームが終了するが、本企画では、手持ち資金1000万円でスタート、11月末までゲームを続けられるように設定してもらった。

トレーディングダービーでは6月から、日本トレードワークスと連携し、相場は立ち会いを採用するようになった。ケイゾン版「協議」も導入した。
http://www.k-zone.co.jp/

＜参加する先輩投資家3人のプロフィール＞

大和田崇さん（ストック・リサーチ社長）

日経BP社記者、ベンチャー・キャピタル最大手JAFCOの投資調査部を経て、ストック・リサーチ社を設立。株式投資は学生時代に開始。ここ数年で最大の成功は、中国のパソコンメーカー、レジェンドホールディングスで10倍のリターンを上げたこと。

伏竜さん（かぶこーネット・オンライントレードの騎士の主宰者）

個人投資家向けコミュニティーサイト「かぶこーネット」の中にある「オンライントレードの騎士」を主宰。現役証券マンとして多忙な投資業務をこなしつつ、ネットトレードの普及・発展に向けて活躍中。

北村静子さん（日本個人投資家協会理事）

「最後の相場師」と言われた足川総裁氏の事務所に勤務していた時に株式投資を開始。95年、個人投資家向け啓蒙活動を目的とする「日本個人投資家協会」の設立に参加。4月に「初心者・友達と楽しみながら学ぶ個人門」（講座）を主宰した。